

令和7年度 教育事業（指導者等養成研修事業）
青少年教育施設ボランティア養成講座（33年目）

1 事業概要

高校生・大学生が、青少年教育施設や様々な地域でボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を学んだ。講義では、ボランティア活動の意義や体験活動の必要性などを知ることができた。また、当施設法人ボランティアがスタッフとして参加し、参加者と一緒に野外炊飯やカヌー研修などの活動を行った。



2 事業の目的（ねらい）

国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図る。

3 企画のポイント

法人ボランティアが講座を担当し、ボランティア活動の経験や想いを伝えることで、参加者にボランティア活動を身近に感じてもらえるようにした。また、市河氏や柴崎氏の講義では、ボランティア活動の意義や体験活動の重要性について、レクリエーションやグループワークを用いて、参加者が主体的に学ぶことができるよう計画した。

- 4 主 催** 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
- 5 後 援** 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・（株）愛媛新聞社
- 6 期 日** 令和7年6月7日（土）～6月8日（日）
- 7 場 所** 国立大洲青少年交流の家
- 8 対 象** 子供と関わるボランティアや体験活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生、社会人等の青少年（29歳以下）
- 9 参加人数** 29名（高校生8名 大学生21名）
- 10 参加費** 4,000円
- 11 講 師** 松山東雲短期大学 教授 市河 勉 氏
 愛媛ボランティア学習研究会 事務局長 柴崎 あい 氏
 大洲地区広域消防事務組合 大洲消防署員
 国立大洲青少年交流の家 職員

12 日 程

6月7日（土）	6月8日（日）
9:00- 9:30 受付	6:30- 8:30 起床・つどい・朝食・退所点検
9:30- 9:45 開講式	8:30- 9:30 [講義] 水辺の活動におけるKYT
9:45-10:45 [講義・演習] はじめてのアイスブレイク	9:30-11:30 [演習] 水辺の活動（カヌー）
11:00-12:30 [講義] 子どもたちに必要な体験とは？	11:30-12:30 昼食・休憩
12:30-13:30 昼食・休憩	12:30-13:30 [講義] 青少年教育施設って何？
13:30-14:30 [講義・演習] 自然体験活動の安全管理	13:45-14:45 [説明] 楽しい！交流の家でのボランティア活動
14:45-16:15 [講義] ボランティア活動の意義	15:00-16:00 [説明] 法人ボランティアとは
16:15-17:00 休憩・ベッドメイキング	16:00-16:30 閉講式・解散
17:00-17:15 タベのつどい	
17:20-18:20 [講義] 野外炊飯におけるKYT	
18:20-20:20 [演習] 野外炊飯（カレー）	
20:20-21:30 入浴・休憩	
21:30-22:30 自由時間・就寝準備	
22:30 就寝	

13 活動内容

【1日目】

講義・演習「はじめてのアイスブレイク」では、アイスブレイクの手法を学ぶとともに、参加者自身が体験することで互いに打ち解け合う機会となった。講義「子どもたちにとって必要な体験とは？」では、ワールドカフェを用いたグループワークを行い、子供や体験活動に対する理解を深め、発達段階に応じた体験活動の必要性を学ぶことができた。講義・演習「自然体験活動の安全管理」では、大洲地区広域消防事務組合消防署員から心肺蘇生法や AED（自動体外式除細動器）の使用方法を学んだ。講義「ボランティア活動の意義」では、視覚障害の方の体験談等を基に参加者同士で考える場面もあり、ボランティア活動の具体的な進め方について学ぶことができた。講義・演習「野外炊飯」では、野外炊飯における危険予知トレーニングや野外炊飯を通して、活動における安全管理について学ぶことができた。また、参加者同士の仲も深まり、よい機会となった。



【2日目】

講義・演習「ボランティア活動の技術-カヌー編-」では、河原における危険箇所を学び、カヌー実習を通して、水辺での活動における安全管理について知識を深めることができた。また、参加者は自然の中で体験活動をすることの良さを感じていた。講義「青少年教育施設って何？」の講義では、施設職員から、社会教育や青少年教育施設の役割を学んだ。説明「楽しい！交流の家でのボランティア活動」では、法人ボランティアが自身のボランティア体験や活動に対する想いを伝えた。参加者は先輩ボランティアの説明を熱心に聞き、今後の活動に対するイメージを膨らませ意欲を高めた。説明「法人ボランティアとは」では法人ボランティアの登録制度について、施設職員が説明を行った。



14 参加者の声

事業後アンケート結果（10代：17名 20代：6名）

*満足：95.6% *やや満足：4.4% *やや不満：0% *不満：0%

○自由記述欄（抜粋）

- ・ボランティアって漠然とした印象を抱いていたが、子供たちにとって何をすれば良いかなどを学ぶことが出来たのでとても充実した2日間になった。
- ・様々な年代と関わり、話すことでさらに視野を広げることができて良かった。
- ・人間として成長出来たし、今回学んだことをこれからの学生生活は勿論、社会人になっても活かしていこうと思った。

15 事業の成果

今年度は、JRの便数の減少や参加者の費用負担を考慮し、松山駅までのマイクロバスでの送迎を行った。松山から乗車した参加者は全体の8割を超えていたこともあり、需要があったと思われる。また、今年度のプログラムに野外炊飯を取り入れることで、ボランティア技術の向上に加えて、参加者同士のつながりも深まりよい時間となった。安全管理については、野外炊飯、カヌー研修の活動前にKYTを実施することで、参加者自身の安全管理に対する意識向上にもつながった。事後のアンケートの内容からも肯定的な意見も多くあり、全体的な満足度は高かったと考えられる。

16 事業の課題

参加者が法人ボランティアの役割や動きをイメージすることができるように、過年度登録の法人ボランティアに簡単な進行や各講義前のアイスブレイク等の役割を任せ、活躍の機会を設ければよかった。

(担当：企画指導専門職 都合 美帆)